

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじんとうきょうこうきょうがくだん		
	制作団体名	公益財団法人東京交響楽団		
	代表者職・氏名	理事長 岡崎哲也		団体ウェブサイトURL
				https://tokyosymphony.jp
	制作団体所在地	〒 169-0073	最寄駅(バス停)	大久保
		東京都新宿区百人町2-23-5		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	とうきょうこうきょうがくだん		
	公演団体名	東京交響楽団		
	代表者職・氏名	理事長 岡崎哲也		団体ウェブサイトURL
				https://tokyosymphony.jp
	公演団体所在地	〒 169-0073	最寄駅(バス停)	大久保
		東京都新宿区百人町2-23-5		
	制作団体 設立年月	昭和21年4月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		会長:澤田 秀雄、理事長:岡崎 哲也 副理事長:平澤 創、依田 巽、 専務理事:廣岡克隆、理事14名、 評議員長:梅沢一彦、 評議員7名、監事2名、 特別顧問3名	楽員:79名 ステージマネージャー:2名 ライブラリアン:2名 事務局:16名 加入条件: 楽員/公募によるオーディション 事務局員/公募による試験、面接	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	長久保宏太朗
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	藤山保子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		<a href="mailto:nagakubo@tokyosymphony.com">nagakubo@tokyosymphony.com</a>		0445201518

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に東京交響楽団に改称。2011年「公益財団法人」格取得。</p> <p>現代音楽の初演などにより、文部大臣賞、毎日芸術賞、文化庁芸術作品賞、サントリー音楽賞、川崎市文化賞等を受賞。サントリーホール、ミュザ川崎シンフォニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行うほか、川崎市、新潟市などの行政と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開、教育プログラム「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」も注目されている。</p> <p>また、新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。海外公演もウィーン楽友協会をはじめ58都市78公演を行う。2024年より、アジア全体の音楽文化の向上を図る「東京交響楽団アジア・プロジェクト」を展開している。</p> <p>さらに「VRオーケストラ」や電子チケットの導入、日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サービス『TSO MUSIC&amp;VIDEO SUBSCRIPTION』をスタートしたほか、2020年3月にニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴し注目を集めるなど、ITへの取組みも音楽界をリードしている。</p> <p>音楽の友誌「コンサート・ベストテン」において、第1弾《サロメ》(2022年)が第2位、第2弾《エレクトラ》(2023年)が第1位に選出。2024年12月の第3弾《ばらの騎士》も大絶賛を博した。</p> <p>音楽監督にジョナサン・ノット、桂冠指揮者に秋山和慶、ユベール・スダーン、正指揮者に原田慶太楼、名誉客演指揮者に大友直人を擁する。</p>
	学校等における公演実績	<p>平成24年度16公演、平成25年度28公演、平成26年度19公演、平成27年度27公演、平成28年度34公演、平成29年度30公演、平成30年度30公演、平成31年度22公演</p> <p>令和2年度8公演、令和3年度16公演、令和4年度20公演</p> <p>令和5年度24公演、令和6年度28公演</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>オーケストラ公演</p> <p>平成27年度 1公演、平成28年度 1公演、平成29年度 2公演、平成30年度 3公演、平成31年度(令和元年度) 2公演。</p> <p>令和6年度 1公演</p> <p>アンサンブル公演</p> <p>令和3年度 2公演、令和4年度 6公演、令和5年度 3公演</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.kodomogeijutsu.go.jp/video/music/c23.html	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

【公演団体名 東京交響楽団 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	○
	企画名	オーケストラ・ワンダーランド ～東京交響楽団演奏会～			
	企画のねらい	<p>多くの子供たちに「はじめてのオーケストラ体験」を提供できるこの機会を最大限に生かすため、以下の3つを企画のねらいとしています。</p> <p>①楽器の生の響きを聴かせる 一度は耳にしたことがある音楽でも、実際に楽器が振動して出す音とスピーカーを通して聴く音との違いを存分に感じられる曲を選びました。「華やかな金管楽器の音」や「優しく繊細な響き」、「床を伝って感じる迫力」などを楽しめるように構成しています。</p> <p>②色々な楽器とその奏者を見せる 「ディズニーのメロディによる管弦楽入門」では、音楽に乗せながらナレーションで楽器の説明します。その時々で音を出している楽器が良く見えるよう、管楽器は立って演奏します。協奏曲ではその楽器の特徴をより深く、また演奏するメンバーのパーソナリティも紹介し「音楽家」を身近に感じられるように工夫しています。</p> <p>③作品から作曲家の思いを感じてもらいたい ベートーヴェンの交響曲第5番「運命」は、耳の間こえなくなったベートーヴェンがその苦難を乗り越えて、どのような音楽を作り上げたのかという作品の背景を、指揮者から児童・生徒に解説します。この解説の後に演奏することで、作曲家はどのような思いで音楽を作り上げたのか、演奏を聴きながら感じられるようにしています。</p>			
	演目概要・演目選択理由	<p>『ウィリアム・テル』序曲の華やかなファンファーレで開幕します。どこかで聴いたことのあるメロディーと躍動感あふれる曲で子どもたちをひきつけます。続いての「ディズニーのメロディによる管弦楽入門」は東京交響楽団の楽器解説のためのオリジナル曲で、小さいころからなじみのあるディズニーのメロディーを使ってオーケストラの各楽器ひとつずつを、メンバーによるナレーション付きで紹介します。協奏曲では、オーケストラの中の一つの楽器をソリストとして取り上げて演奏する、「協奏曲」というスタイルを聴いてもらいます。ここで登場するソリストは、できるだけ地元ゆかりのあるメンバーを起用します。前半最後は音楽の授業では必ず取り上げるベートーヴェンの交響曲第5番「運命」から第一楽章を演奏して締めくくります。</p> <p>休憩後は、吉松隆氏の弦楽オーケストラで演奏するロック音楽で今までとは違うリズムや響きを体験していただきます。そのあとは全体合唱、指揮者体験コーナーで児童・生徒さんの参加していただきます。フィナーレはオーケストラによる「和」を感じていただくために、日本特有のリズムやメロディがふんだんに盛り込まれた「管弦楽のためのラブソディ」で締めくくります。アンコールでは、久石譲氏作曲のジブリアニメ『天空の城ラピュタ』より「君をのせて」を演奏して終演となります。</p> <p>*一部学校の選択プログラムによって曲目が異なります</p>			
	児童・生徒の参加または体験の形態	<p>①指揮者体験コーナー 指揮者の役割を指揮者が解説した後に、全校生徒さんに手を動かして指揮者の動きを実習していただき、児童・生徒の代表3名に指揮棒を持ってオーケストラを指揮してもらいます。</p> <p>②みんなで歌おうコーナー オペラの指揮経験も豊富な指揮者から、歌うために簡単な発声練習などをした後、オーケストラ伴奏で「ビリーブ」または校歌を全員で歌います。</p> <p>③芥川也寸志《Do Re Mi Fa Sol La Si Do!》で子ども達に声を出したり、楽器を持ってきたりしてもらいオーケストラの演奏に参加し一緒に曲を作り上げてもらいます。</p> <p>④吹奏楽部や器楽部の共演 各校吹奏楽部の部員にとって「素敵な思い出」にできるよう、各学校の部活状況をお伺いした上で曲目、事前指導できるようなプログラムを準備いたします。みんなで歌おうコーナーでいつも演奏している校歌をオーケストラと一緒に演奏することなどもできます。</p>			
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	指揮者体験コーナー3～4人、 《Do Re Mi Fa Sol La Si Do!》・校歌・ビリーブ歌唱の場合は全員 その他吹奏楽部などの共演は体育館の大きさにより別途相談	
			鑑賞人数目安	体育館に収容可能な人数(600名程度)	

本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>&lt;第1部&gt; ロッシーニ: 歌劇『ウィリアム・テル』序曲より「スイス軍の行進」 小室昌広 (編曲): 「ディズニーのメロディによる管弦楽入門」(ナレーション付き) 協奏曲(モンティ: チャールダーシュ、モーツァルト: ファゴット協奏曲など)※協奏曲のソリストにはできるだけ地元ゆかりのあるメンバーを起用 ベートーヴェン: 交響曲第5番「運命」から第1楽章 (休憩15分) &lt;第2部&gt; ☆吉松隆: アトム・ハーツ・クラブ組曲第1番から第1楽章 ☆芥川也寸志: 《Do Re Mi Fa Sol La Si Do!》 ★アンダーソン: トランペット吹きの日 ★【指揮者体験】ビゼー: 歌劇『カルメン』から前奏曲 ★【みんなで歌おう】 杉本竜一: ビリーブ または 訪問校校歌 外山雄三: 管弦楽のためのラブソディ 【アンコール】久石譲: 『天空の城ラピュタ』から「君をのせて」 ※☆★の曲目は学校選択プログラムで、☆から1つ、★から2つ訪問校の希望に沿って調整いたします。《Do Re Mi Fa Sol La Si Do!》・ビリーブ・訪問校校歌(オーケストラ編曲版)での全校児童・生徒との共演、または訪問校の吹奏楽部・器楽部などとの共演をいたします。</p>						
	公演時間		90	分			
出演者	指揮: 大井剛史 または その他の指揮者 ナレーションおよびソリスト: 東京交響楽団の楽団員 管弦楽: 東京交響楽団 (2管12型編成) ピッコロ×1、フルート×2、オーボエ×2、クラリネット×2、ファゴット×2、ホルン×4、トランペット×3、トロンボーン×3、チューバ×1、 ティンパニ×1、打楽器×3、ハープ×1 ファースト・ヴァイオリン(コンサートマスター1名含む)×12、セカンド・ヴァイオリン×10、ヴィオラ×8、チェロ×7、コントラバス×6						
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	指揮: 大井剛史 17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、山形交響楽団指揮者、同正指揮者(2013～2017)、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者などを歴任。このほか全国の主要オーケストラを指揮している。2024年4月、東京佼成ウインドオーケストラ常任指揮者に就任。 ※その他の指揮者は日程上大井剛史が出演できなかった場合に調整。						
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 69 名 スタッフ: 13 名 合 計: 82 名			運搬		積載量: 4 t 車 長: 7.9 m 台 数: 2 台	
本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	8:30	8:30～12:30 当日のリハーサルを含む		13:30～15:00	15分	15:00～16:30	16時30分
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
本公演 実施可能日数 目安  ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月		7月		8月		9月
	7日		0日		0日		4日
	10月		11月		12月		1月
	6日		3日		0日		0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		20日

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡



全景  
オーケストラに必要な  
スペースは  
約9m×15m  
管楽器と打楽器は、こ  
どもたちが見やすい  
ように段を設置してい  
ます。



協奏曲ではオーケス  
トラの前にソリストが  
出て演奏します。

著作権、上演権等  
の許諾状況

各種上演権、使用権等の許諾手続の要  
否

該当あり

該当コンテンツ名

小室昌弘編曲：ディズニーのメロ  
ディーによる管弦楽入門  
吉松隆：アトム・ハーツ・クラブ組曲  
芥川也寸志：《Do Re Mi Fa Sol La Si  
Do!》  
アンダーソン：トランペット吹きの日  
杉本竜一：ビリーブ  
外山雄三：管弦楽のためのラプソディ  
久石譲：君をのせて

該当事項がある  
場合

権利者名

日本音楽著作権協会

許諾確認状況

採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。



別添

なし

【公演団体名

東京交響楽団

】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	ワークショップでは、公演に向けてオーケストラを構成する楽器の種類「弦楽器」「管楽器」「打楽器」についてそれぞれの特徴を知ってもらうこととともに、音楽の主な要素である「メロディ」「ハーモニー」「リズム」をあわせて学んでいきます。楽器紹介の曲がありますので、ワークショップで事前に聴いたそれぞれの楽器がオーケストラの中でどのような役割をはたすのか、またその他にはどんな楽器があるのか、公演に向けて興味関心を持てるようにそれぞれ解説をしていきます。 また、打楽器の解説では訪問校で使われている打楽器をお借りして演奏します。いつも学校で使っている楽器をプロが演奏するとどのような音がするのか、次に自分たちで授業で使う際の「目標」となる音を体験してもらいます。		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	クラス単位～全校生徒 ※できるだけ演奏会を聴かれる児童・生徒さん全員の参加を希望します。
	ワークショップ実施形態及び内容	<p>※実施時間は45分×2コマの90分です。1コマごとに違う内容を行います。 学校の希望により、同内容のものを45分×2回行うこともできます。 ※会場は体育館または大きな教室で行います。(ピアノが必要です)</p> <p>【ワークショップ指導者】 オーケストラの演奏者(弦楽器1名、管楽器1名、打楽器2名)4人 ピアノ1名 司会1名</p> <p>○オーケストラで使われる楽器から、弦楽器、管楽器、打楽器を間近で見せながら、その楽器の成り立ちや特徴、演奏方法を奏者が解説をしていきます。(各楽器20分程度) ○楽器によっては少しだけ楽器を体験できる場合もあります。 ○各楽器説明の後にはピアノ伴奏で小品の演奏を行います。 ○打楽器の解説では学校にある楽器をお借りして実施します。いつも授業で使っている楽器がプロの演奏家が使うとどのような音がするのか体験してもらいます。 ○それぞれの楽器で質問コーナーを設けるなど、児童・生徒さん対話をしながら進めます。 ○弦楽器、管楽器の部分ではおもにメロディーやハーモニーを感じてもらうことを主にします。そして打楽器の部分では、リズム体験を取り入れ実際に児童・生徒さんに参加してもらいます。 ○児童・生徒さんが習い事でいちばん多くふれているであろう「ピアノ」についても希望によりコーナーに取り入れます。 ※吹奏楽部・器楽部との共演を希望する学校の場合は、ワークショップ当日に生徒さんへの指導を行います。(別日程希望の場合は応相談)</p>		
	その他ワークショップに関する特記事項等	音楽の授業で取り上げている曲や、学校での音楽への取り組み(合唱に力を入れている、ボディーパーカッションなどでリズム教育に力を入れているなど)と協調して進めることができます。 それぞれ学校との調整により進めます。		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 東京交響楽団 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。  
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。  
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。  
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。  
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		5 A以上	
舞台設置面積		間口	15 m	奥行	9 m		
		高さ	指定なし	m			
舞台設置場所		フロア対応	可	学校のステージでの対応		条件が合えば可	
搬入間口の広さ		幅	1.8 m	高さ	1.8 m		
遮光の要否		不要		緞帳の要否		不要	
ピアノの使用について		使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		なし	
				ピアノを使用しない場合の移動の要否		要	
搬入車両(トラック等)の横づけ		応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		30 m以内	
搬入車両の種類		中型トラック		台数	2 台		
搬入車両の大きさ		車幅	2.27 m	車長	7.99 m		
備考							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	体育館近くまでトラックが入れない場合はどのような搬入経路を予定されるかお示しください	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
ワークショップ						
本公演						
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	控室として4～5部屋(小さい部屋2～3、普通の教室2)を控室としてお借りします。	
	2		
3			



(任意) 会場条件について最低限必由条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面

体育館  
舞台

### ピアノ設置位置

ピアノは使いませんので  
この場所でなくてもど  
ちらかのわきに置いてく  
ださい。

体育館の舞台

舞台袖

設置舞台

設置舞台

9 m

15m

パネル

パネル

m

体育館  
フロア

鑑賞位置

鑑賞位置

間口

後方

トラック

前方

フロア使用時

別添

なし

【公演団体名

東京交響楽団

】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

まずは子ども達に本物のオーケストラを生の音で全身で感じてもらいたい。  
SDGsの掲げる【目標4】[教育]すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進するのうち、特に7の「さまざまなさまざまな文化があることなどを理解できる教育をすすめる」にあたる活動と考えています。東京交響楽団は定款の中に、「青少年の音楽普及」を掲げており、教育プログラムは演奏活動の中でとても重視しています。  
子どもたちの「ホームグラウンド」である学校の体育館での演奏では、通常のコンサートホールよりも手の届く身近な距離でオーケストラを見てもらうことにより、クラシック音楽に興味がなかった子どもたちにも、演奏会が終わるころにはオーケストラのファンになってくれることを願っています。感受性のやわらかいうちにオーケストラや音楽、またそれから広がって文化芸術の魅力を感じてもらい生涯にわたり心の豊かな人生をおくることができる一助になりたいと考えています。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

体育館でも通常のコンサートホールでの演奏と同じく演奏用のひな壇を持ち込み、後ろの方の楽器も見えるようにしています。また楽器紹介では紹介されている楽器がわかるように、たって演奏したり、手を振るなどをしてわかりやすくしています。

小学生・中学生それぞれの理解度にあわせ、演奏者ではない司会者が横から出て話すのではなく、目の前で演奏をしている指揮者の解説を入れていきます。それにより、子ども達の集中を分散させずにコンパクトな演奏会、わかりやすい適切な解説になるようにしています。

演奏曲目も教科書に載っているものから、現代の作曲家の作品や邦楽の旋律を取り入れた作品とバラエティに富んだ選択をしています。

当日、子ども達がダイレクトに感想を言えるように、休憩時間にも子ども達と対話をしたり楽器をみせたり、終演後は体育館からでも子ども達全員に声をかけるようにしています。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

先生方の事務作業の負担をかけないよう、必要な事項がわかる資料を適切なタイミングで提供するように心がけます

学校で事前事業に必要な資料を可能な限り用意いたします

学校側から回答を求めるものに関しては記入用のエクセルファイルを用意し、記入・返信をいただければよいように工夫します

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

ワークショップ時に観察した児童・生徒さんの様子を指揮者や楽団員と共有し、当日の解説などで役立ててもらうようにしています。また事前のワークショップに参加できなかった児童・生徒さんがいる場合はできるだけ学校にワークショップでのことを共有いただくようお願いをしています

ハンディキャップをもつ生徒さんがいらっしゃるような場合はワークショップの時点からどのように参加をしたら良いかを個別に先生へお伝えするとともにICT機器の利用についても案内をしています

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

日本オーケストラ連盟のアンケート調査「子どものためのオーケストラ」でオーケストラと過ごした時間は、7割以上の子どもたちにとって、「自分の中で何かが変わった」と感じさせる、心が動き出すきっかけとなっていることが明らかになっています。東京交響楽団ではその後の興味関心を引き続き持っていただくべく、当日配布のプログラムで楽団の公式Webサイトを案内。その中で演奏会の案内や、無料ライブ配信「ニコニコ東京楽団」の情報を掲載。継続した学びに役立てていただけるようにしています。